

タイトル

「実録 神仏からの教え 宇宙の原理と幸せの法則」

サブタイトル

「予告 2021年4月～9月 西日本で大きな地震に注意せよ！」

はじめに

今回、本書にて、お伝えさせて頂く内容については、ホームページやSNS等を通じて「無償」で発信させて頂く事を模索しておりました。

しかし、何ら特別な才能を持っている訳ではない私が、情報を発信して多くの方に受け取って頂く事は、難しい部分があるので、電子書籍と言う形にてお伝えさせて頂く事とさせて頂きました。

その為、「無償」には、なりません、出来るだけ多くの方に読んで頂けるように、工夫したいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

また、本書が皆さんの「幸せ」の「一助」となれば幸いです。

1つの問いかけ

これから、お話する内容は、私の実際の経験と体験に基づいております。

まず、最初に一つの質問をさせて頂きます。

「貴方は、何の為に産まれて来ましたか？」

是非、時間を取って、じっくりと考えて頂きたいと思います。

どうでしょうか？

貴方なりの答えは、見つかりましたでしょうか？

「いや、何も浮かんでこない」と、言う方も居られると思いますが、ご安心下さい。
実は、この質問に即答出来る方は、「ほとんど居られません。」

多くの方々が、この人生の根本と言える「命題」に向き合った事がないのです。

では、もう一つ質問をさせていただきます。

「貴方は、幸せでありたいと思っけていますか？」

Yes or No でお答え下さい。

どうでしょうか？

ほとんどの方が「Yes」と答えられたのでは、ないでしょうか？

では、もう一つ質問をさせていただきます。

「貴方の幸せとは、どの様なものでしょうか？」

「幸せの定義をお答え下さい。」

どうでしょうか？

多くの方が、「貴方の幸せとは、どの様なものでしょうか？」と、言う質問には、答えが浮かんでも、「幸せの定義」は、なかなか答えが浮かんでこなかったのでは、ないでしょうか？

まとめると、この様な感じの方が多いのでは、ないでしょうか？

何の為に産まれて来たか？ は、判らないが、
幸せでありたいと思っけています。

ただ、幸せとは、どう言う状態なのか？ を、明確に定義する事は、出来ない。

この様な状態で、現在の「歳」までの時間を生きて来た。

そして、この様な状態で、これからも生きて行く。

本書は、この様な方の「人生の指針」と成ればと発刊させて頂きました。

では、もう一つ質問をさせていただきます。

「貴方は、何人（なにじん） ですか？」

ほとんどの方が、国籍のある国、又は居住している国や、地域を基に「●●人」と、答えられたと思います。

と、言う事は、我々、地球に住んでいる人間は、「地球人」とともに、地球は、宇宙に存在しているので「宇宙人」とも言えます。

地球の国々には、その国の「法律」や「文化」「習慣」があるように、地球と言う星にも法則があります。

例えば、太陽は、東から昇り、西に沈むとか、時速約1700kmで自転している等。

当然ながら、我々が存在している、この宇宙にも法則があります。

そして、沢山ある宇宙の法則の中で、今回は、「因果応報」を中心に話しを進めさせていただきます。

ここで、一つ質問をさせていただきます。

「因果応報」と聞いて、どの様なイメージが湧いてきますでしょうか？

多くの方が、こうではないでしょうか？ 「宗教？」

「因果応報」 辞書で調べますと、こんな感じで解説してあります。

「因果応報とは、良い行いか悪い行いかによって、ふさわしい報いが現れる事」

言い換えると、「原因結果」とか、「自業自得」とかで表現される事もあります。

例えば、「人の嫌がる事をする、嫌われる。」

どうでしょう？ 「宗教」と言うよりは、ごく身近で起こっている出来事ではないでしょうか？

多くの方が、「宇宙の法則」と言えば、何処か自身とは、関係のない遠くに在るスピリチュアルな世界の出来事のように捉えて居られますが、当然、地球も我々一人一人も、この宇宙に存在しており、「宇宙の法則」に基づいて存在しているのです。

その事は、皆さんの実生活や実体験を振り返って頂ければ実感して頂けると思います。

「真面目に勉強したから、テストの点数が良かった」

「いつも、面白い事を言って、皆を笑わせていたので、クラスで人気があった」

など、私達の生活は、全て「因果応報」の連続で構成されています。

ここで、一つ質問をさせていただきます。

「貴方は、今、幸せですか？」

どうでしょうか？

答えは、様々だと思います。

「Yes」「No」「どちらとも言えない」「こう言う時は幸せ」 等々

この本の「目的」は、刻々と変化する世の中に於いて、「貴方は、今、幸せですか？」の質問に対して、概ね「Yes」と答えられる貴方になって頂く事です。

ここで、私が冒頭でさせて頂いた質問を思い出して頂けますでしょうか？

「貴方の幸せとは、どの様なものでしょうか？」

「幸せの定義をお答え下さい。」

この質問に対する「答え」は、皆さん、夫々、様々だと思いますが、「定義」となると明確に定義づけ出来る方は、少ないのではないのでしょうか？

ただ、多くの方が、「幸せになりたい」と、思っており、「幸せでありたい」と、願ってお

られます。

そうです、多くの方が「幸せとは？」と言う状態か、ハッキリしていない状態で、「幸せになりたい！」と思っているのです。

これは、例えるなら、「行先が決まってないのに、旅行に行きたい！ 旅行に行きたい！」と、思っているのと同じ事になります。

ここで、私達の先輩の知恵を借りると、お釈迦さんは、幸せの定義をこう記しております。

「不満が無く、充実している事」

ん？ なんか判ったような、判らないような、と言う感じではないでしょうか？

で、私は、幸せの定義をこう考えております。

「満たされている事」

ん？ これも判ったような、判らないような、と言う感じだと思います。

少し、ガッカリされたかも知れませんが、実は、「定義」は、「誰にも」「いつでも」「何処でも」当てはまる必要があるので、どうしても「抽象的な表現」になるのです。

ただ、押さえておいて頂きたいのは、「誰にも」「何処でも」「どの様な時代でも」共通して有効である、と言う事です。

大好きな料理を食べた時は、「幸せ」を感じる方は、多いと思いますが、時間が経てば消えてしまう「幸福」です。

大好きなパートナーと結婚し、一緒に過ごす時間は、「幸せ」を感じると思いますが、いずれは、別れの時が来ます。

本書で求める「幸せ」は、この様な外的要因に左右されずに、感じられる「幸せ」を目標として設定しております。

● 「欲求」と「幸せ」の関係

先に述べました「幸せの定義」を再度、確認いたしますと、お釈迦さんは、こう定義しておりました。

「不満が無く、充実している事」

私は、「満たされている事」

意味合いは、同じなので、私の幸せの定義である「満たされている事」を基本として話を進めさせていただきます。

「満たされている」と、言う状態をイメージするのに、一番判り易いのが、コップに水を満たした状態ではないでしょうか？

では、私達人間の満たされている状態は、何が満たされている状態なのでしょうか？

それは、皆さん個々人が持つておられる、「欲求」と言う事になります。

水の注がれる「器」が、皆さん個々人が持つておられる、「欲求」と言う事になります。

で、実は、この皆さん個々人が持つておられる「欲求と言う器」は、皆さんが、違った「器」を持つておられます。

コーヒーカップを持つている方も居られますし、大きなボウルを持つている方も居られません。

中には、25mプールを持つている方も居られるかもしれません。

ここで、質問です。

「貴方は、どの様な器（欲求）を持つていますか？」

「その器に水を満たすのには、どの位の時間や努力が必要ですか？」

コーヒーカップに水を満たすのは、簡単です。 殆どの方が出来ると思います。

では、25mプールに水を満たすのはどうでしょうか？

個人で行うには、結構大変だと思います。

多くの方々は、この「欲求」と言う「器」を大きくして、その、大きな「器」を「満たす」為に日々を「あくせく」生きているのです。

お判り頂けると思いますが、この「欲求」と言う「器」を、小さくすれば、するほど「楽」に「満たす」事が出来て「幸せ」を感じる事が多くなるのです。

しかしながら、この様な疑問が湧いて来る方も居られるのではないのでしょうか？
「夢」や「目標」を持つ事は、良くない事なのか？

● 「後悔と言う苦しみ」と「経験と言う宝」

多くの方は、「夢」や「目標」を持ち、日々、努力されていますし、「夢」や「目標」を持ち努力されている人を応援する気持ちを持っていると思います。

大きく分けると、「夢」や「目標」も「欲求」言えます。

先に述べたように、「欲求」と言う「器」を、小さくすれば、するほど「楽」に「満たす」事が出来て「幸せ」を感じる事が多くなる。 のは、事実です。

ただ、「頭で考えるだけ」で、「欲求と言う器」を小さくするのは、事実上無理であると言う、現実があります。

私は、この本を執筆している時点で、お金に対する執着は、殆どありませんが、以前は、自身で起業した事もありますし、様々な仕事やビジネスを経験して来ました。

また、その過程で、「今日ここから飛び降りようか、」と言うような状況も経験してきました。

そのような実体験を経て、自身の「欲求と言う器」を小さくする事が出来ているのです。

なので、私は、現時点で、「貴方は、幸せですか？」と、問われれば、躊躇なく「Yes」と答える事が出来ます。

ただ、この「幸せ」及び、「満たされている」と言う感覚は、非常に「曖昧」で、かつ「個人差」があります。

私の現在の状況を、皆さんに実際に体験して貰う事は、不可能ですし、言葉で表現しイメージして頂く事も難しいのが現状と言えます。

しかし、それでは、この本を読む意味が無くなってしまいますので、私が「幸せ」あると言える理由を一つ挙げますと「深く悩む事が、殆ど、無い」と言う事です。

勿論、私も人間ですので日々、様々な「問題」や「課題」、不安要素に直面しております。

これは、皆さんも同じだと思いますが、その中で私が、最初にやる事は、「正しく現状を把握する」と言う事です。

現状を「正しく把握する」事が出来れば、あとは、それに対して「どう対応するか!？」だけです。

「えっ？ それは、私達も同じです！」と、言う声が聞こえて来ますが、ここで、大切なポイントは、その「物事」や「出来事」また、「その結果」に「執着を持たない」と言う事です。

例えば、

社会人の方であれば、この様な経験や、話を聞いた事があるのでは無いでしょうか？

「私は、Aさんより努力していて、結果も出しているのに評価されていない」
勿論、この様な事は、その方の人生に大きな影響を与える出来事ですし、大切な事であると思います。

ただ、この出来事に対して「執着」を持って、「上司に対して詰め寄ったり」「Aさんに嫉妬したり」するとどうでしょうか？

結果、貴方自身は、「心がモヤモヤ」しますし、場合によっては、上司やAさんとの人間関

係がギクシャクして、更に「心がモヤモヤ」する事があるのでは無いでしょうか？

ここで、一番大切な事は、「自身の評価が低い理由を正確に把握」して、「それを素直に改善する」事です。

そうすれば、自然と「貴方が望む結果」となり、自然と「満たされる」事になります。

また、人間関係がギクシャクして、更なる「問題を生み出す」事ありません。

人が持つ「欲求」は「単なる出来事」に対して、様々な「感情」を生み出します。

それは、時として、「執着」や「拘り」また、他者に対しての「怒り」や「憎しみ」「妬み」となり、人間関係に影響して、結果的に貴方自身を「苦しめる状況」を作り出します。

そう、貴方自身の「欲求」が、結果的に貴方自身を「苦しめる」事になるのです。

どうでしょうか？ この様な経験は、多くの方がしているのでは無いでしょうか？

勿論、私自身も、これまでの人生で、何度も自身が「苦しむ」結果を生み出してしまいました。

では、なぜ人は、「欲求」を持っているのでしょうか？

●宇宙の成り立ち

ここで、視野を広げて「宇宙全体」の成り立ちを見て行きたいと思います。

皆さんは、夜空を見上げた事があると思います。

宇宙には、大きく分けて「何」と「何」が在りますでしょうか？

大きく分けると「光」と「闇」に分かれている事が判ると思います。

光の存在として、一番身近なのが「太陽」です。

ご存知の通り「太陽」は、「恒星」の1つで、中心部分で核融合を行い「光」と「エネルギー

一」を全方向に向けて放っています。

そして、我々が存在する「地球」は、その光とエネルギーを受け取り、様々な生命活動を行っています。

これは、皆さんが知る、周知の事実であります。

この事実から 1 つ押さえておいて頂きたいのが、この宇宙は、実体として大きく 2 つのスタンスに分かれていると言う事です。

1 つは、「太陽」を始めとした光やエネルギーを放っている「与えるスタンス」

もう、1 つは、ブラックホールや私達地球の生命のように、光やエネルギーを受け取り存在している「求めるスタンス」

この 2 つのスタンスが存在しており、この 2 つのバランスによって、この宇宙は、存在しており、維持されていると言う事です。

また、当然ながらこの「2 つのスタンスのバランス」は、この宇宙の一部である地球に住む、私達人間にも当てはまります。

ただ、私達人間の場合は、「常に与えるスタンスの人」と「常に求めるスタンスの人」の様に固定的に分かれているのではなくて、時として「与えるスタンス」であったり、「求めるスタンス」であったりと、その「状況」や「相手」によって変わる事があります。

例えば、

「恋愛」について見てみると判り易いと思います

「恋愛」を分析しますと、まず「恋」と「愛」に分けられます。

「恋」は、「●●を恋う」や「○○が恋しい」などの様に「求めるスタンス」であります。

一方、「愛」は、「●●を愛する」や「○○に愛情を注ぐ」などの様に「与えるスタンス」であります。

そう、「恋愛」は、「求めるスタンス」と「与えるスタンス」の両面を兼ね備えた、人々との関わりであるのです。

そして、先に述べたように、この宇宙は、この「2つのスタンスのバランス」により、存在し、維持されていますので、恋愛における人間関係も「求めるスタンス」と「与えるスタンス」のバランスによってお互いの関係が良くあり、維持されるのか、また、そうで無いのかが決まります。

また、これは、「恋愛」に限らず、「全ての人間関係」に当てはまります。

例えば、男女が砂浜に向き合って座り、お互いが「欲しい、欲しい」と砂を自身の方へ引き寄せ合うと、どうなるでしょうか？

二人の間には、「溝」が出来ますね。

では、一方が「欲しい」と砂を引き寄せ、もう一方が「どうぞ」と砂を差し出せば、どうなるでしょうか？

二人の間には、「平坦なまま」となります。

では、お互いが「どうぞ、どうぞ」と砂を差し出し合えば、どうなるでしょうか？

二人の間には、「砂の山」が出来ます。

この山は、いずれ二人にとって、掛け替えのない「宝の山」となります。

ただ、ここで、1つ非常に大切なポイントがあります。

この「与えるスタンス」は、「無償」を前提としている必要があります。

その理由は、「与えるスタンス」の陰に「見返りを求めるスタンス」があると、それは、「相殺」されて「0（ゼロ）スタンス」となり「与えた事には、ならない」からです。

この事は、皆さんの実際の生活の中でも、お判り頂けると思いますが、何かを与えて貰ったとしても、その事で「見返りを求められると」どうでしょうか？

人生は、この「無償の与えるスタンス」を、身に着ける為の「学びの場」であり「修行の

場」であるのです。

では、なぜ、「与えるスタンス」を身につける必要があるのでしょうか？

● 「求める苦しみ」と「与える喜び」

「与えるスタンス」が必要な訳につきましては、まず、「求めるスタンス」には、「苦しみ」が伴うと言う事を押さえておいて頂きたいと思います。

例えば、

ここでも、「恋愛」を見てみたいと思いますが、先に述べたように、「恋愛」には、「求めるスタンス」と「与えるスタンス」があります。

どなたにも、「人を好きになった経験」があると思います。

産まれて初めて人を好きになる事を「初恋」と言いますが、その時の感覚を思い出して頂くと判ると思います。

なんとなく、「胸の苦しさ」を感じた事はなかったでしょうか？

それは、「恋しい」と言う「欲求」が生まれ、その欲求が「満たされていない」から苦しさを感じたのです。

その「恋しい」想いを、相手に受け容れて貰い「欲求が満たされれば」幸せを感じたと思います。

ただ、残念な事に、この「幸せ」は、長続きをしない事が殆どです。

では、本当の「幸せ」とは、「どの様なもの」でしょうか？

「本当の幸せ」とは、「状況や時の流れ等による変化に影響を受けない不変的な幸せ」であります。

先ほどの恋愛の場合は、「恋しい人の心が変われば幸せは、消えて行きます。」

大好きな食べ物を食べた幸せは、「食べ物を食べてしまい満腹になれば、消えて行きます。」

そうです、「何かを求めれば、その求めたものの、状況により自身の幸せは、影響を受けません。」

では、「求めるものが、無ければどうでしょうか？」

「求めるもの、求める事自体が無ければ、なに物にも影響を受ける事が有りません。」

「何も求める事がなくて、幸せを感じるの？」と、言う声が聞こえて来そうですが、「与える喜び」「与える幸せ」は、「求める幸せ」より遥かに大きな「幸せ」を感じる事が出来ます。

例えば、子供を育てた事がある方なら、こんな経験があると思います。

産まれて来た子供を見つめながら、「元気で居てくれるだけで、幸せだと」感じた事は、無いでしょうか？

その時に、子供に「何かを求めているでしょうか？」

「何も求めて、いないのに、幸せを感じていたのでは、ないでしょうか？」

また、子供の居ない方でも、「自身の行った事」で、「ありがとう」と感謝された時に「何も求めている」のに、幸せや喜びを感じた事は、ないでしょうか？

実は、この「無償の与えるスタンス」は、全ての人が持っているのです。

ただ、多くの方が、「与えるスタンス」よりも「求めるスタンス」の方が強いのです。

それは、私達人間の多くが、この宇宙に存在する様になってから、まだ、日が浅く、若い未熟な生命だからです。

では、「未熟でなく」て「成熟した」生命は、存在するのか？

存在します。

それは、私達人間が「神」や「仏」と呼んでいる存在です。

多くの方が、「神」や「仏」を「願いを叶えてくれる存在」や「救ってくれる存在」と考え

ているかもしれませんが、私の経験から言うと「神」や「仏」は、我々人間の「先輩」であり「手本となる先生」であります。

ただ、ここでは、「神仏」について深くは、触れませんが、世界中に「神」や「仏」にまつわる「教え」や「話」「伝説」がある事実は、踏まえておいて頂きたいと思います。

「私達は、未熟な生命」である事から、先に述べた、「学びの場」として「修行の場」として、この世界は、存在しております。

●この世の中は、「修行の場」

「この世の中」とは、「私達が存在している、この宇宙」です。

冒頭に述べましたが、この宇宙の原則は、「因果応報」です。

この「因果応報」の原則が実際に働いているのは、先述しました様に、私達の実際の身の回りを見ても、お判り頂けると思います。

では、もう一度「因果応報」を平たく言いますと、「自身の行った事」が、報いとして「自身に返る」と言う事です。

例えば、

「人に暴力を振るい痛い目に合わせる」と報いとして、それ相当以上の「痛い目に自信が合う」と言う事になります。

どうでしょうか？

冷静に考えて頂ければ判ると思いますが、この「因果応報」は、「判って無い者」を「判らせる」為の教育システムであります。

即ち、この宇宙自体が、「教育の場」であり、「学びの場」「修行の場」として創造されているのです。

今風に、平たく言いますと、この宇宙は、「研修センター」であり、私達は、「研修生」と言う事になります。

では、「何を学び、何を身に着ける為の研修なのか？」

それは、「他者への思いやり」です。

では、なぜ「他者への思いやり」を学び、身に着ける必要があるのか？

それは、「因果応報を原則とした、この宇宙を何故創ったのか？ また、何故創る必要があったのか？」という問いになり、原因は、この宇宙の外側にあると言う事になるので、現時点では、私には判りません。

ただ、この時点で、私達は「他者への思いやりを身に着ける」為に「研修生」として産まれて来たと言う事には間違いは無いので、その事については、是非とも受け止めて頂きたいと思います。

ですから、「大きな家に住み、美味しい料理を食べる為に産まれて来たのでは無い」と、言う事です。

●地球は、「特別研修センター」

地球は、特別研修センターです。

先ほど述べました様に、この宇宙は、「他者への思いやりを身に着ける」為の研修センターですが、地球は、更に、「特別に設けられた」特別研修センターです。

なぜ特別かと言いますと、「身体を持った研修」だからです。

まず、ここで、1つ押さえておいて頂きたいのが、生命の「存在スタイル」は、基本的には、「エネルギー体」であると言う事です。

日本では、「魂」や「霊体」と呼ばれています。

現代的に例えると「携帯電話の電波」や「テレビの電波」に近い存在であると言えます。

生命の本来の姿は、この「エネルギー体の形」で存在しているのです。

日本では「あの世」と表現される「次元」に「エネルギー体」として存在しているのが、この宇宙に於ける生命の元々の在り様です。

その「エネルギー体」として感じ取る「宇宙の在り様」を、より「鮮明」に、より「ビビット」に感じ取れるように開発された「研修用ボディースーツ」が私達の「身体」です。

ですから、寿命が来て、「研修用ボディースーツ」が必要なくなれば地球に、返却して生命の本体である「エネルギー体」（魂と霊体）は、日本では「三途の川」と呼ばれている次元境界線を越えて、俗に言う「あの世」へ帰るのです。

では、なぜ「身体」と言う「研修用ボディースーツ」が必要なのでしょう？

先に述べましたように、この宇宙の原則は、「因果応報」であり、それは、教育システムであり、この宇宙自体が「修行の場」であります。

我々生命の本来の姿は、「エネルギー体」であり、この宇宙の「あの世」と呼ばれている領域（次元）で存在しています。

そして、「あの世」に於いても日々「修行」しており、「他者への思いやり」を身に着ける研修を受けています。

ただ、「エネルギー体」として、存在しているので、様々な経験も、少し「ぼやけて」しまい、思う様に「修行が進まない」と言う問題点があります。

そこで、私達より「願い出て」もっとハッキリと修行が進むシステムを「神仏」に創って貰ったのが、先ほどから申している、身体と言う「研修用ボディースーツ」を使った「人生」と言う「研修システム」なのです。

では、なぜ、「身体と言うボディースーツ」を使った、ハッキリと修行が進むシステムが必要なのでしょう？

それは、「あの世」で在りながら、私達は「未熟」であるが故に、私達自身が持つ「欲求」（煩悩）により、様々な「苦しみを抱えている」からです。

自ら持つ「欲求」（煩悩）から引き出されている「苦しみ」から逃れる為に、よりハッキリと修行が進むシステムを「神仏」に創って欲しいと、お願いしたのです。

即ち、私達「人間」は、自身の持つ「苦しみ」を払う為に、自ら願い出て、懇願し、人間

として産まれて来ているのです。

そして、それは、言葉では、言い表せない程の「倍率」を突破して人間として産まれて来ているのです。

例えば、

この地球で一番多い生命は、バクテリアです。

バクテリアは、地球の地表より地下約10kmの地底全てに、ビッシリと居るそうです。地球だけでも想像を絶する数の生命が存在しているのですから、宇宙全体には、どれ位の生命が存在しているのか、想像もつきません。

その、想像もつかない数の中から選ばれ70億人の中に入っているのが、私達地球人なのです。

では、なぜ、私達人間の殆どは、その事を知らずに生きているのでしょうか？

私達人間は、産まれて来る時、「産道を通る時」に「あの世」の記憶を消されます。たまたま、帝王切開で産まれた方の中で「あの世」の記憶がある方が居られるのは、その為です。

人間が産まれて来る時に「あの世」の記憶を消される理由は、幾つかあります。

① 「試されている」

本当の意味で「宇宙の在り様」を理解し「他者への思い遣り」を身に着ける事が出来ているのか？ 試されている。 その為人間には、自由が与えられています。

② 「平等」

地球には、生命体として、様々な成熟度の人産まれてきます。

日本で俗に言う「地獄レベル」の方から「菩薩レベル」までの方が1つの星に共に修行をする仲間として産まれて来ます。

なので、産まれて来る「あの世」での状況に関係無く、全ての人に平等に自身の「魂レベル」を上げる事が出来るチャンスを与えると意味があります。

③ 「子が親に手本を見せる為」

地球に産まれて来る子供は、「真っ白な状態」即ち「全くのゼロベース」で産まれて来ます。

多くの親は、子供の事を「可愛い」と思い一生懸命に世話をします。
多くの親が子供を「可愛い」と思う理由には、子供の「無邪気」さが在ります。
字の如く産まれて来た子供には「邪気が無い」のです。
それは、親に対して「子供への無償の愛」を持たせる役割と、親に自身の持つ「邪気」に気付かせる役割を持って産まれて来るからです。

以上のような事など、から人は、産まれて来る時に産道で、あの世の記憶を消されるのです。

まとめると、地球は、「生命体エネルギー」として、宇宙のある領域に存在している「魂」の成熟度によって、その成熟度を更に高める為に、身体を持った修行の場であります。

そして、その「修行の場」である、「宇宙」及び、「地球」などの「星々」を「創造」して「運営」しているのが、「神」であり「仏」であります。

● 「人生」と言う「修行システム」

では、私達、「生命」は、どの様にして誕生したのでしょうか？

これは、私の今までの実際の見聞に基づいた内容ですが、私達が存在している、この宇宙を「創造」したのは、私達が日本に於いて「大日如来」と呼んでいる存在です。

「大日如来」が「この宇宙を創造した」のであれば、その「大日如来」は、元々は、何処に、何時から存在していたのでしょうか？

それは、申し訳ありませんが、現時点で私には判りません。

ただ、この事に基づいて、現在までの「私自身の実際の経験」について検証してみて「辻褄があっている」ので、是非、皆さんの「実際の人生」また、「実際の経験」に於いても、照らし合わせて検証してみてください幸いです。

ここで、私達地球人が科学的に解明している事を少し確認しておきます。

私達は、「宇宙」と呼んでいる「空間」に存在しており、その「空間」に「地球」と呼んでいる「星」が存在している。

この事について「異論」がある方は、殆ど居られないと思います。

そこで、押さえておいて欲しい事は、「地球」は、「宇宙の中」に在り、「宇宙の一部」であると言う事です。

当たり前の事で、ありますが、この事が前提にある事を忘れての方が、意外と多いのです。

例えば、日本には、「あの世」と「この世」と言う表現があり、「あの世」と「この世」は、全く別物と捉えている方が居られますが、これは、どちらも「この宇宙に存在している」のです。

即ち、「地球で出来る事」は、大前提として「宇宙で出来るインフラが整っている」と言う事です。

例えば、幼稚園にある「砂場」が宇宙であるとすれば、私達地球人は、その「砂場」で園児が「山やトンネル、お城を創る」様に、様々な「物」を作っていると言う事です。

言い換えるならば、私達地球人が日々作っている「物」は、「宇宙のインフラとして用意されている物」を「少し形を変えているだけ」だと言う事です。

ですから、私達地球人がこれまでの歴史の中で「発明」したと言っている事は、単に、私達地球人が「知らなかっただけ」で、元々この宇宙のインフラとして整備されている事を「発見」しただけであると言う事なのです。

その中で、1つ押さえておいて頂きたいのが、「量子コンピューター」です。

「量子コンピューター」は、地球上では、まだ「実用化」まで至っていませんが、実験段階では実行可能となっております。

即ち、この宇宙には「量子コンピューター」で実行可能な「量子レベルでの働きがインフラとして備わっている」と言う事であり。

言い換えると、「この宇宙は、大きな量子コンピューター」であり、「私達は、その量子コンピューターの中に存在している」と言えるのです。

私達が存在している「この宇宙」を身近なパソコンシステムに例えると、太陽や地球から供給されるエネルギーは、パソコンの電源に当たり、私達の「魂」は、様々なソフトウェアと言います。

また、私達の身体は、様々な事を実行するプリンターや3Dプリンターであり、私達が実行し「言動」は、私達の過去として「ファイル」に保存されています。

そして、この「宇宙全体のシステム」を「管理・運営」しているのが、私達が「神」や「仏」と呼んでいる私達の「先輩」であり、「協力者」であります。

ここで、私が述べている事は、中々、受け止める事が出来ない方が多いと思います。それは、当然ですし私自身、全ての方に理解して頂けるとは、思っておりません。

何故なら、今、話させて貰っている内容は、まだ、地球科学では、解明されておらず、現在の「宇宙」や「地球」そして私達「地球人」が「存在している」のは、「たまたま、である」と言う事になっているからです。

しかしながら、私達地球人の科学技術も進歩しており、最先端の天文技術により観測データと理論計算により、「宇宙は1つでは無いのでは？」と、「多元宇宙論」が発表されたりしています。

また、現在の「宇宙や地球」の姿が「たまたま形成される確率」を計算された方の結果は、「限りなくゼロに近い」でした。

この確率を例えると、水を張ったプールに腕時計の部品を全部バラバラしにして投げ込み、水をかき回して、何かの拍子に、この部品が元の時計に戻る確率位だそうです。

まず、「あり得ない」と言っていていいと思います。

何よりも、皆さん自身は、皆さん自身が「たまたま存在していると言う実感」を持った事があるでしょうか？

それよりも、朝起きた時点から、「何らかの意思を持ち」自身で、その意思に基づいて行動し生活しているのでは、ないでしょうか？

私は、この世界は、「たまたま」ではなくて「何らかの意思」に基づいて創造され、運営されていると言う方が「辻褄が合う」と思っております。

皆さんは、どうでしょうか？

● 「神」と「仏」によって運営されている宇宙システム

皆さんは、「創造主」という言葉を耳にした事があると思います。

私の見聞からしますと「創造主」は、日本で「大日如来」と呼ばれている存在と、いう事になります。

私達が存在している「この宇宙」は、まず、「暗闇」の部分が「創造」され、その後に「小さな、小さな光」の部分が生まれ、現在の「姿」まで発展して来ました。

そう、私達が存在している「この宇宙の始まり」は、ビックバンでは、ありません。

この事は、近年における地球人科学の発展により、「暗闇の部分の広がり方」と「光の部分（星々）の広がり方」に違いがある事が確認されており、徐々に解明されつつあります。

では、なぜ「暗闇の部分」と「光の部分」が、あるのでしょうか？

それは、端的に言いますと「求める側の存在（暗闇の部分）」と「与える側の存在（光の部分）」が存在していると言う事です。

即ち、この宇宙は、「求める側の存在」と「与える側の存在」のバランスによって成り立っていると言う事です。

「与える側」から発せられた「エネルギー」は、「求める側」に流れ、「この宇宙は、常に変化」しています。

お釈迦さんの言葉を借りると「諸行無常」と言う事になります。

そして、

「光の部分の代表」が「神や仏」であり。

「闇の部分の代表」が「悪魔やサタン」であります。

では、私達「人間」は、どの様な「存在」なのでしょうか？

私達人間の「魂の親」は「仏」です。

なので、私達人間は「光の側の存在」であります。

ただ、私達人間の「魂」は、「若く」「未熟」であるので「求めるスタンス」が多く残っております。

その「魂の成熟度」により、私達の「魂」は、586段階に分けられています。

最上位は、この宇宙の「創造主」である「大日如来」

それ以下は、日本における仏教での名称である「如来」「明王」「菩薩」と言われる方々が存在し「人間界」「地獄界」と続きます。

俗に言う「仏」または、「ブッダ」と言われる存在は「悟りを開いた存在」という意味で、平たく言えば私達人間の「大いなる先輩」と言う事になります。

では、私達「地球人」は、どの様な存在なのでしょうか？

私達地球人は、先に述べました「人間界」及び、「地獄界」に所属している「魂」で、いずれの「魂」も、まだ、未熟で各々が「欲求」即ち「煩惱」を持って存在しています。

また、先に述べたように、「欲求」を持ち存在している事で、その、欲求が「満たされない苦しみ」を抱えています。

その「苦しみを抱えた魂の状態」を「地獄」と呼んでいます。

「地獄」とは、

多くの方が「地獄」とは、そう言う「場所」があつて、「罪を犯した者」は、「地獄」に行かされると、思っておられると思いますが、「地獄」とは、皆さんの「心」即ち「魂」の状態の事を言います。

先に述べましたが、この宇宙では、「魂の成熟度」によって、586段階にランク付けされています。

地球人の間では、「天国」と「地獄」と表現される事が多いですが、単に2つに分けられているのではなくて、もっと多くの段階に分けられています。

日本において一般的に「地獄」と言うと「餓鬼」「畜生」「修羅」と呼ばれる「魂の状態」の事を指しますが、実は、「地獄」と言って良い「魂の状態」は、もっと多くて、例えば、「ケチケチ地獄」とか、「強欲地獄」などと表現出来るような「状態の魂」の方も居られます。

皆さんの周りには、居られませんでしょうか？

とにかく「自分が得をする事ばかり考えている人」

また、「ちょっとでも自身の物や知識、また、労力を提供したりするのを嫌がるケチな人」

更に、「周りの人の批判ばかりしている人」

どうでしょうか？

普段は、いい人に見えても、何かあれば「強欲」や「ケチ」また、「妬み」「嫉妬」が出て来る人

どうでしょうか？ 居られませんか？

まあ、いずれにしても、そう言う人は「因果応報」の法則で、余り人に好かれては、いないと思います。

では、どうしたら、私を含めた自身の「実際の魂の状態」が判るのでしょうか？

また、いつ、それが判るのでしょうか？

それは、「物事が自身の思惑通りに行かない時」です。

例えば、現在の地球上に存在している「富裕層」には、他者への「思い遣り」を持ってい

る方々も沢山居られます。

ただ、その他者への「思い遣り」を自身の所有している「富」を失っても持ち続ける事が出来るのか？ が非常に大切となり、この窮状に於ける「心の状態」が、その人の「実際の魂の状態」という事になります。

身近な事では、たまに、お酒を飲むと「人が変わった様になる人」が居ますが、この酔った時の人間性が、その人の奥底にある「本質」であり、「実際の魂の状態」と言う事になります。

私は、お酒を飲みますが、酔った時の「他者との関わり方」を、自身で見つめて、自身の「実際の魂の状態」をセルフチェックしています。

そして、改善出来る所は、改善するように心がけています。

では、どの様にして改善すると良いのでしょうか？

この時に「根本の指針」となるのが、先に述べております「宇宙の原理原則」である「因果応報」であります。

「他者が嫌がる事をすれば、嫌われる」

「他者が喜ぶ事をすれば、好かれる」

ごく当たり前の事ですが、この事が「根本」であり、「全宇宙の共通事項」であります。

これだけです。

そう、凄く「シンプル」で、「単純」なのです。

でも、実際の人生では、多くの方が「人間関係で悩み」「人間関係で苦しんで」います。

なぜ、でしょうか？

やる事は、「他者が嫌がる事を、しない」「他者が喜ぶ事を、する」だけです。

この事の実行を妨げているのが、皆さんが持つ「自身の欲求」です。

仏教的に言いますと「煩惱」と言う事になります。

では、なぜ、多くの生命は「煩惱」を持っているのでしょうか？

申し訳ありません、私は、現時点で、何故多くの生命が「煩惱」を持っているのか？ は、判りません。

ただ、「煩惱」が在る事により、多くの生命は、「煩惱を満たそうとする事」により、様々に活動をし、様々な経験をする事により、「学び成長している」と、言う事は、事実であります。

釈迦は、こう言っております。

「煩惱は、悟りの菩提」

「煩惱が在る事により、迷いや苦しみが、生じるけれども、その事をクリアして行く事により、悟りへと近づいて行く」と、言う事です。

逆に言いますと「煩惱」は、生命が修行を重ね、経験を積んで、成長し、幸せに存在する為に、与えられた「課題」であると言えます。

そして、私達が存在している「この世」に於ける、皆さんの「人生」は、その「課題」をクリアする為の「修行」であり、現代風に言いますと「研修」であると言えます。

そして、この「人生と言う修行」に於ける「課題」は、人により違ってきます。

今回の「人生」に於いて「夫婦愛を学ぶ事」が「必須課題」と、なっている方は、必ず結婚します。

また、今回の「人生」に於いて「親子愛を学ぶ事」が「必須課題」と、なっている方は、必ず子供が出来ます。

結婚せず、子供が居ない方は、それ以外の「必須課題」があります。

また、一回の人生で「全ての課題」をクリアする事は、出来ないので、「何度かの人生に分けて」修行を行います。

その、何度かの人生の「繰り返し」を「輪廻転生」と言います。

そして、その「修行システム」を「管理・運営」しているのが、人間の「魂の親」である「仏」であります。

また、そこには、「宇宙の自然システム」を「管理・運営」している「神」も協力して頂いております。

なので、私達人間の人生には、「神仏」は、切っても切れない存在であると言えます。

私達は、自ら「志願」「懇願」して産まれて来ています。

先にも述べましたが、私達人間の「魂」は、まだ、未熟で多くの「欲求」即ち、「煩惱」を持って存在しています。

なので、あの世では、個人差がありますが「満たされない苦しみ」を抱えています。

その、苦しみをクリアし、楽に成る為に、「自ら手を挙げて」また、仏に「懇願して」言葉では言い表せない程の倍率を突破して人間として修行する為に産まれて来ています。

そして、俗に言う「宿命」である「何処で」「誰の子として」産まれるか！ また、「今回の人生で学ぶ課題」を仏より説明を受け、了承した上で、その課題に対する「目標」と「誓い」を自身で「宣言」して産まれて来ています。

ここで、私が本書の冒頭でさせて頂いた、皆さんへの質問を思い出して頂きたいと思いません。

「貴方は、何の為に産まれて来ましたか？」

この質問に対する「答え」は、皆さん各々、違うと思います。

ただ、そのバックグラウンドにある、

「この宇宙の存在意義」

「この宇宙の原理、原則」

「生命の存在意義」

は、全ての方に共通しております。

全ての人間の「魂」の「親」は、「仏」であり「神」です。

そうです。

全ての人間が「全宇宙の生命の源」である「仏」や「神」の「魂」を引き継いでいるのです。

自分自身を決して「小さく」しては、いけません。

何故なら、皆さんは、「全宇宙のバランスと平安」を保つ為に存在している「生命のリーダー候補」なのです。

私は、この事を「正しい」と、皆さんに「押し付ける」気持ちは、一切ありません。

ただ、私の人生に於いて、実際に経験した事を基にして、実際の私の人生に於いて、辻褄が合っております。

良ければ、皆さんの「人生の一助」として頂ければ幸いです。

あとがき

この「あとがき」を投稿している、2020年8月の時点で、世界中で「新型コロナウイルス」が猛威を振るっております。

また、年々、自然災害が世界中で甚大化しております。

「ご縁」があり、この本書を読んで頂ける方は、この「地球人類」を良き方向へと「導いて頂ける方」だと、思っております。

是非、「他者への思い遣り」を、日々の生活の中で、照れずに、「実践」し「発信」して頂きたいと思います。

宜しくお願い致します。

あと、この時点で、私が持っている情報です。

「神仏からの予告」

「2021年4月～9月頃、日本の西日本で大きな地震がある」 との事

出来れば、頭の隅に置いて頂いて、
大難を小難に、小難を無難に して頂きたいと思います。

最後まで、お読み頂きまして、ありがとうございました。

作者：有馬 武史

尚、本書についてのお問い合わせは、下記のサイトへお願い致します。

<http://be-happy-together.com>

facebook.com/road.to.be.happy.together.world